

令和4年度事業計画書

公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社（以下、「公社」という。）は、令和3年度から令和7年度までの5年間の指定管理業務を行う団体として名古屋市から指定を受けました。2年目にあたる令和4年度は、以下の事業計画と収支予算により、業務を進めてまいります。

1 基本方針

(1) 自然環境の保全及び活用

名古屋市民御岳休暇村（以下「休暇村」という。）は、御嶽山の麓、自然環境に恵まれ、市民生活を支える水源の木曾川上流域に立地しています。この市民の貴重な財産である広大な自然環境の保全と活用を図りながら、市民や地元と協働して事業を進めます。

(2) 自然体験や環境学習主体の事業運営

豊かな自然を活用した体験事業や環境学習プログラムにより、市民の心身のリフレッシュや健康増進の支援を行うとともに、青少年の健全育成に寄与します。

(3) 利用促進と効率的な経営

自然体験企画等の充実及び効果的な広報の実施により利用促進に努めるとともに、業務委託の導入等により経費削減を図り、効率的な経営に努めます。

2 事業の実施計画

(1) 公益目的事業

近年、環境に対する関心は非常に高く、旅行に対する考え方や価値観も大きく変化しているなか、公社は、地元王滝村や休暇村の恵まれた自然環境を活用した体験事業や環境学習の実施など、地域に特化した観光の振興と環境保全を進めます。

ア 自然体験事業

休暇村敷地内のヒノキやカラマツなど50ヘクタールに及ぶ人工林の間伐、枝打ちや広葉樹の植樹などの森林整備を地域や下流域の市民と協働で進める「市民の森づくり事業」、国・長野県の補助事業を活用して設置した「王滝百草の森」の整備を地元王滝村の協力を得て進めるとともに、水源涵養や地球温暖化防止(CO₂削減)、生物多様性など森林が果たす機能と重要性について学ぶことができる森林体験学習などサステイナブルな活動を推進します。

また、地元の協力を得て、遊休農地を利用した農業体験、木曾地方に伝わる食物を始め伝統文化等の体験事業や食育を進めます。

イ 青少年健全育成事業

小・中学生を始め青少年が自然の中での集団生活や自然体験活動を行うことにより、自然環境に対する感動や創造性を育む「豊かな心」を醸成し、生命の

大切さや人権の尊重など道徳性の涵養を身につけることを目的とした青少年の健全育成事業を、大学生のボランティア「キャンプカウンセラー」や特定非営利活動法人(NPO)とともに進めます。

ウ 健康増進支援事業

森林浴や高地ウォーキング、温泉療養、薬膳料理の提供など豊かな自然環境を活用したプログラムの提供により市民の健康増進を支援します。

(2) 収益事業

ア 施設貸与及び飲食販売事業

名古屋市から遠く離れた休暇村で行われる様々な体験活動等に参加するには宿泊が欠かせないため、宿泊に伴う施設貸与や飲食提供を行うとともに土産物等の販売を行います。

イ 旅客自動車運送事業

交通アクセスが良くない休暇村利用において、自家用自動車を持たない人や高齢者が体験活動に参加いただけるよう貸切バスによる名古屋・休暇村間の送迎を行います。

3 事業参加者促進への取組み

平成29年6月に長野県南部で発生した地震の影響により、セントラル・ロッジがおよそ3年間の休館を経て、令和2年6月8日に再開館しました。引き続きコロナ禍にはありますが、利用促進に向けて次のとおり取り組みます。

(1) 広報・PR

ア 新たな利用者層の獲得に向けて、休暇村の施設、立地条件などの特性を活かしたゼミ合宿やスポーツ・サークル合宿での利用促進に取り組みます。具体的には、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、名古屋市総務局と連携し、名古屋市立大学を始めとする愛知県内各大学の学生課を通じたPRを行うほか、留学生を含めた名古屋地域の学生、サークル、学生団体などを対象にしたモニターツアー（ファムトリップ）を実施し、休暇村の情報をSNSにより発信していただくとともに、大学生の利用促進に向けた提案をしていただきます。

イ リピーター客を呼び戻すため、ダイレクトメールを活用したPRのほか、過去に利用実績のある学校や団体・企業などに対して、利用の働きかけを行います。また、スケッチや撮影会等の企画ツアーに参加された方の作品展や休暇村に関連した作品ならどなたでも参加のできる作品展を名古屋市内で開催します。

ウ 自然の場を活用したチームビルディング（チームで協力して課題解決に取り組むことを通じて、協力し合うことへの理解促進及び一体感の醸成や人的ネットワークの形成などを図る）への関心の高まりを踏まえ、各種研修利用の促進

を図ります。

エ 日本遺産に指定されている木曾地域や王滝村の観光魅力とあわせた集客を図るため、名古屋市、地元町村や観光関連団体等と連携してスキーシーズン、グリーンシーズンなど焦点を絞った観光PRイベントを名古屋市内で開催します。

オ 即時伝達性や若年層へのアピールを念頭にフェイスブックやブログ等SNSの活用やホームページの充実、休暇村PR動画による利用促進を図ります。

カ 名古屋市の協力を得て、名古屋まつりや東山動植物園春・秋まつりを始め市内で開催されるイベントに出展参加します。また、名古屋市が行う尾張藩連携事業により利用促進を図ります。

キ 公社の事業取組について、プレスリリース、配信を行います。（広報なごや、各マスコミ、旅行誌への事業プランの案内や賛助会員制度等の情報提供）

ク 事業案内パンフレットを各区役所・支所の情報コーナーやスポーツセンター、生涯学習センター、図書館、児童館、福祉会館といった公共施設等への配架を行うほか、名古屋市営地下鉄名城線の車両扉に休暇村のPRステッカーを掲出するなど、休暇村をより多くの市民に知っていただくための広報活動を展開していきます。

ケ 名古屋市内各種団体や企業に対して訪問営業活動を行います。（事業プランや会員制度の案内、保養所契約を締結した団体への積極的な利用促進依頼）

(2) 事業の充実等

ア 休暇村の利用促進と公社の財政基盤を強化するため、賛助会員制度の効果的な運用を図り、会員の募集に努めます。

イ 御嶽古道や瀬戸川国有林、御嶽の星空など地元で埋もれている観光資源や歴史的資源の掘り起こしと活用を図ることで、ここでしか体験することのできない「オンリーワンの楽しみ方」を提案していきます。

ウ リピーター客のさらなる増加に向けて、地元食材を用いた食事メニューを充実するとともに、再訪したくなるミニトリップの紹介とミニツアーを提供します。

エ 地元の有識者や技術継承者、農林業経験者などの協力を得て、自然環境や文化・歴史等を対象にした体験企画を実施するなど、参加者の満足度を一層高めます。

オ 森林浴や温泉浴、高地効果や転地効果など休暇村の特異な立地条件を活用した滞在型の健康増進支援プランを提供します。

カ 貸切バス経営のメリットを生かした名古屋・休暇村間送迎の体験企画メニューを充実します。

4 利用の環境整備等

- (1) 2026年に愛知・名古屋で開催予定の「アジア競技大会」を見据え、自転車競技を始めとしたスポーツ合宿や高地トレーニングなどの利用受け入れの環境整備を進めます。具体例として、合宿料金の設定、合宿向け食事メニューやアスリート向け食事メニューの提供、マウンテンバイクやトレイルラン、クロスカントリーなどの練習コース整備、近郊のスポーツ公園や練習場所への送迎などを行います。
- (2) 高齢者や障害者も安心して自然の中で憩いの時を過ごすことができるよう、遊歩道の整備を始め村内整備を進めます。
- (3) 森林浴や温泉浴による「憩いと癒し」や豊富な自然を利用して非日常を体感し、リフレッシュすることができる宿泊型体験施設として整備を進めます。
- (4) 外国人の利用を見据え、館内英語表記を進めます。

5 地域への貢献と連携

名古屋市から離れた地にある休暇村で様々な事業を展開するには、王滝村を始め地元の協力が不可欠であるため、地元で行われる各種行事や奉仕活動への積極的な参加、観光振興イベントへの協力を行うなど地域との信頼関係の構築に努めます。

- (1) 地域の自然景観、文化・歴史、産業・技術などの資源を活用し、観光による豊かな地域づくりと地域経済の活性化を目的に王滝村や木曾町、木曾おんたけ観光局等が進める「世界水準の滞在型観光地づくり」への協力
- (2) 王滝観光総合事務所やスキー場などが行う観光振興イベントとの連携
- (3) 地域の自然や歴史、文化、産業などの積極的な紹介と体験プログラム等の実施による相互交流
- (4) 王滝村地域おこし協力隊との連携により、観光資源の掘り起こしや観光商品の開発、下流域との交流人口や関係人口を増加させるなど地域の活性化への取組
- (5) 地域の環境保全・整備事業及び奉仕活動への参加協力
- (6) 名古屋市が掲げる公民連携の推進、名古屋市の局横断的なタスクフォースとの連携による休暇村の活性化

6 環境保全への取組

市民の貴重な財産である休暇村の広大な自然の保護等環境保全に努めます。

- (1) 長野県林業総合センターや森林管理署などによる技術指導や林業経験者の協力を得て、間伐・植樹・下草刈り・炭焼きなどを行う市民の森づくり事業を実施し、水源涵養や地球温暖化防止（CO2の削減）に努めます。
- (2) 長野県や王滝村、有識者の協力を得て、村内に生息するササユリやラン、クマタカや、昆虫類など希少な生物等の保全活動に取り組めます。
- (3) 信州省エネパトロール隊の提言に基づく、省エネ、温室効果ガスの削減など環

境改善へ取り組みます。

- (4) 生態系に及ぼす影響が懸念されている海洋プラスチックゴミ問題を解決する取組として、レジ袋やストローなどのプラスチック素材からの代替を進めます。
- (5) 廃棄物の発生抑制（リデュース）とリサイクルを推進します。

7 安全対策

(1) 施設の保全

ア 建物・機械設備等は、保守点検及び法定点検のほか日常点検を欠かさずに行い、性能の維持管理に努めるとともに利用者の安全確保に努めます。

イ 道路、遊歩道、橋梁、駐車場のほか村内敷地の日常点検を行い、適正かつ安全な状態を維持します。

(2) 事故、災害対策

ア 防火対策委員会・自衛消防組織による火災等災害の予防、防災設備の改善計画策定及び防災意識の高揚と啓発活動を実施します。

イ 危機管理マニュアルに基づき、事故や盗難、破壊等犯罪の発生の警戒、防止及び日常の保安警備を実施します。

ウ ノロウイルスなどによる感染症や食中毒防止、レジオネラ属菌対策など衛生管理を徹底します。

エ 新型コロナウイルス感染症対策として、職員のワクチン接種を推進するほか、職員の検温、消毒液による手指消毒、マスク着用を徹底するとともに、利用者に対しても検温、消毒など協力を求めます。また、客室や食堂が密にならないよう、席数を制限するなど配慮します。

オ 自動車事故防止のため、車両の日常点検の実施と運行管理者及び整備管理者による安全な運行管理を行います。

カ 熊や猪などによる事故の未然防止策を講じます。

(3) 個人情報の保護

公社が保有する情報に対して保護対策が十分か定期的に点検し、適切な保護対策を講じます。

ア 個人情報に対する取扱いや職員の責務についての意識向上を図ります。

イ 個人情報が記載されている文書は、盗難、災害等による情報の漏えい、滅失又は、き損を防止するため厳格な管理をします。

ウ 電子情報に対しては、人的情報保護対策及び技術的情報保護対策を講じ、情報の漏えい、滅失又は、き損を防止するとともに、ネットワークや情報システム、コンピューターへ不正なソフトウェアの侵入、感染又は、不正なアクセス行為を防止するための措置を講じます。

8 職員の資質向上及び職場環境の改善

- (1) 市民が自然の中で行う様々な体験活動や森林・温泉などの自然環境を活用した健康増進の支援を行うため、事業に必要な各種資格等の取得に努めるとともに知識・技術の向上研修や業務研修を実施します。
- (2) 市民生活を支える水源の木曾川上流域に位置する休暇村の自然環境を保護し、活用するため、森林整備や自然環境保全の知識や技術の取得向上研修を実施します。
- (3) 職員一人ひとりがお客様ファーストの意識を持ち、ご利用いただいたお客様にご満足をいただくための接遇の向上を図るとともに、ハラスメントがなく、働きやすい職場環境づくりを目指して、職場改善に取り組みます。

9 長野県南部で発生した地震及び御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取組

(1) 長野県南部で発生した地震の影響と今後の見通し

平成 29 年 6 月 25 日に発生した木曾町を震源とする震度 5 強の地震の影響により、セントラル・ロッジは約 3 年間休館し、耐震改修工事を経て令和 2 年 6 月 8 日にリニューアルオープンしました。コロナ禍にあつて感染拡大防止の措置を講じながら、営業再開しましたが、令和 3 年度も引き続き、厳しい営業となりました。令和 4 年度以降もリピーターを呼び戻すほか新たな利用者層の獲得に向けた取組を行うことにより、御嶽山噴火前の平成 25 年度利用実績 20,000 人(セントラル・ロッジ 15,000 人, キャンプ場 5,000 人) を目標に掲げて職員一丸となつて、さらに取組んでまいります。

(2) 御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取組

平成 26 年 9 月 27 日に発生した御嶽山噴火の後、王滝口登山道は、御嶽山七合目の田の原天然公園から上部が入山規制されていましたが、平成 29 年 8 月 21 日には噴火警戒レベルが 1 (活火山であることに留意) に引き下げられました。王滝口登山道は「王滝頂上山荘」を避難所に改修し、令和 2 年 7 月に王滝頂上までの入山が可能となりましたが、火山性地震の増加がみられたことから、令和 4 年 2 月 23 日に噴火警戒レベルが 2 (火口周辺規制) に引き上げられました。

そうした中、令和 4 年度は、王滝村において、王滝頂上山荘跡地に木造避難施設の建設、八丁ダルミへ鋼鉄製シェルターの移設、王滝頂上から剣ヶ峰への直登ルート of 仮復旧が計画されているほか、火山防災の情報発信などを目的として、田の原に「長野県立御岳山ビジターセンター」の建設が進められております。

今後も引き続き御岳山の状況に注視しながら、状況に応じて、地元自治体や観光関連団体との連携や名古屋市の協力を得ながら、利用者の V 字回復に努めてまいります。

(資料)

令和 4 年度 公益目的事業 (計画)

1 主催事業

主催事業回数 115回、 延べ参加人員 11,935人

(1) 自然体験事業

実施回数 48回、延べ参加人員 1,880人

| 事業名 | 回数 | 人員 | 実施時期 |
|---------------------|----|-------|---------------------|
| 間伐、植樹、下草刈りなど水源の森づくり | 3 | 240 | 6, 9, 10月 |
| 森林体験学習 | 9 | 270 | 4～11月 |
| 自然体験登山・トレッキング | 20 | 660 | 4～12, 3月 |
| 星座教室、特別観望会 | 5 | 380 | 5, 8～10, 12月 |
| 農業、里山、山村体験 | 5 | 150 | 6, 9～11月 |
| スケッチ・写真撮影会 | 6 | 180 | 4, 6, 10, 11, 1, 3月 |
| 合計 | 48 | 1,880 | |

(2) 青少年健全育成事業

実施回数 29回、延べ参加人員 2,855人

| 事業名 | 回数 | 人員 | 実施時期 |
|-------------------------------|----|-------|--------|
| こども村キャンプ | 18 | 2,125 | 7, 8月 |
| こども村ネイチャーキャンプ | 1 | 120 | 9月 |
| 親子体験 (昆虫採集・標本、森の学校、スターウォッチング) | 4 | 190 | 7月～10月 |
| こども村スキーツアー | 3 | 330 | 12, 3月 |
| 雪の学校 | 3 | 90 | 1, 2月 |
| 合計 | 29 | 2,855 | |

(3) 健康増進支援事業

実施回数 38回、延べ参加人員 2,600人

| 事業名 | 回数 | 人員 | 実施時期 |
|------------------------|----|-------|-------|
| 健康増進ウォーキング・トレラン教室 | 19 | 1,630 | 4～10月 |
| 山菜・茸採り体験リフレッシュプラン | 3 | 210 | 6,10月 |
| 山野草・薬草観察 | 4 | 220 | 6,9月 |
| シニアスキー教室・健康増進スノーウォーキング | 12 | 540 | 12～3月 |
| 合計 | 38 | 2,600 | |

(4) 体験館等の運営

参加人員 4,600人

| 事業名 | 人員 | 実施時期 |
|------------------|-------|------|
| 食の体験館 | 120 | |
| 木工・工芸体験館 | 80 | |
| 天文館 | 3,400 | |
| クライミング体験 | 300 | |
| 間伐材を利用した木工体験出前講座 | 700 | |
| 合計 | 4,600 | |

2 支援事業

支援事業件数 500件 人員 8,000人

| 事業名 | 件数 | 人員 | 実施時期 |
|--------------------------------|-----|-------|------|
| 野外活動・キャンプ指導・青少年健全育成 | 40 | 1,000 | 6～9月 |
| 環境保全・環境学習・体験学習 | 15 | 500 | 通年 |
| 登山・スキー・自転車・ウォーキング・ランニング等スポーツ支援 | 300 | 4,000 | 〃 |
| 自然観察（天文・地質・気象）・植物観察 | 30 | 1,000 | 〃 |
| 森林浴・健康ウォーク | 100 | 1,300 | 〃 |
| 絵画・写真・地域文化 | 15 | 200 | 〃 |
| 合計 | 500 | 8,000 | |